

五十嵐福代先生のご退職に寄せて



略 歴

- 1933年 愛知県名古屋市に生まれる
- 1953年 名古屋市立女子短期大学卒業
- 1953年 国立愛知療養所栄養士
- 1958年 愛知師崎町立師崎中学校教諭
- 1961年 愛知県職員病院栄養士
- 1966年 山田家政女子短期大学講師
- 1970年 林学園女子短期大学家政学科助教授
- 1978年 林学園女子短期大学家政学科教授
- 1989年 東京大学医学部で保健学博士取得
(1980年4月 大学名を江南女子短期大学、学科名を生活科学科と改称)
(1998年4月 大学名を愛知江南短期大学と改称)

学内における役職歴

- 1983年4月～1986年3月 附属図書館長
- 1990年2月～1990年9月 生活科学科長職務代理

研究分野

臨床栄養学 栄養指導

学会・社会における活動

所属学会

五十嵐福代先生のご退職に寄せて

日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本公衆衛生学会、民族衛生学会、
老年医学会

学会における役職歴

1997年10月～現在 日本栄養改善学会理事

社会における役職歴

1990年4月～1994年3月 愛知県栄養士会理事

1994年4月～1998年3月 愛知県栄養士会副会長

1998年4月～2002年3月 日本栄養士会理事

2002年4月～現在 愛知県栄養士会会長

受賞歴

1976年11月 第23回栄養改善学会賞受賞

1985年9月 愛知県知事表彰(栄養士養成施設功労者)受賞

1993年10月 厚生大臣表彰(栄養関係教育功労者)受賞

研究業績

【主な著書】

1. 五十嵐、他共著：「栄養指導演習ノート」 医歯薬出版 1973年
2. 五十嵐、他共著：「最新臨床栄養学 - 食事療法の理論 - 」 医歯薬出版 1981年
3. 五十嵐、他共著：「臨床栄養学 食事療法の実習」 医歯薬出版 1983年
4. 五十嵐、他共著：「給食管理論講義録」 光祥社 1984年
5. 五十嵐、他共著：「栄養指導論」 中央法規出版 1991年
6. 五十嵐、他共著：「食事調査のすべて - 栄養疫学 - 」 第一出版 1996年
7. 五十嵐、他共著：「介護に役立つ食と栄養の100講話集」 中央法規出版 1997年
8. 五十嵐、他共著：「新しい栄養指導演習」 医歯薬出版 1999年
9. 五十嵐、他共著：「栄養指導論」 中央法規出版 2000年
10. 五十嵐、他共著：「介護に役立つヘルシー献立100選」 中央法規出版 2001年

【学術論文】

1. 五十嵐、他：病人食における栄養指導の研究(第一報), 栄養学雑誌, 25, 3, 1967
2. 五十嵐、他：名古屋市内における市販強化米のビタミンB₁含量について, 栄養学雑誌, 25, 4, 1967

3. 五十嵐、他：農山村における栄養指導の研究（一），栄養学雑誌，26，2，1968
4. 五十嵐、他：農山村における栄養指導の研究（二），栄養学雑誌，26，5，1968
5. 五十嵐、他：農山村における栄養指導の研究（三），栄養学雑誌，27，2，1969
6. 五十嵐、他：集団給食における栄養管理の研究，栄養学雑誌，27，4，1969
7. 五十嵐、他：農山村における栄養指導の研究（四），栄養学雑誌，28，1，1970
8. 五十嵐、他：日本における栄養調査（第二報）乳幼児・小学生・中学生を対象とした調査の内容について，栄養学雑誌，40，4，1982
9. 五十嵐、他：日本における栄養調査（第三報）高校生・短大生・大学生を対象とした調査の内容について，栄養学雑誌，40，4，1982
10. 五十嵐、他：日本における栄養調査（第四報）青年・中年・母性を対象とした調査にみられる内容について，栄養学雑誌，41，3，1983
11. 五十嵐、他：日本における栄養調査（第五報）-成人を対象とした調査にみられる内容について-，栄養学雑誌，41，3，1983
12. 五十嵐、他：日本における栄養調査（第六報）地域的集団特性からみた経年変化，栄養学雑誌，42，1，1984
13. 五十嵐、他：高齢者における血清脂質濃度の地域差に及ぼす摂取栄養の影響について，日本公衛誌，35，1988.
14. 五十嵐、他：脳卒中，心筋虚血の発病に対する血清脂質と肥満の役割の近年の推移 - 愛知県長久手町における10年間の検診成績による検討 - ，日本公衛誌，35，1988
15. 五十嵐、他：栄養指導による日常摂取栄養素（摂取総エネルギーおよび三大栄養素）量の変化が血清脂質および関連因子に及ぼす影響について，日本公衛誌，36，1989

【紀要】

1. 五十嵐、他：女子学生の食生活に関する研究（第一報），林学園女子短期大学紀要，1，1971
2. 五十嵐、他：愛知県小原村における栄養改善へのあゆみ，林学園女子短期大学紀要，2，1973
3. 五十嵐、他：学内給食管理実習の教育に関する研究（第一報），林学園女子短期大学紀要，4，1975
4. 五十嵐、他：学内給食管理実習の教育に関する研究（第二報），林学園女子短期大学紀要，5，1976
5. 五十嵐、他：給食管理実習の教育に関する研究（第三報），林学園女子短期大学紀要，6，1977
6. 五十嵐、他：給食管理実習の教育に関する研究（第四報），林学園女子短期大学紀要，7，

1978

7. 五十嵐、他：給食管理実習の教育に関する研究（第五報），林学園女子短期大学紀要，8，1979
8. 五十嵐、他：給食管理実習の教育に関する研究（第六報），林学園女子短期大学紀要，9，1980
9. 五十嵐、他：集団給食における自製冷凍品の利用と保存に関する研究，江南女子短期大学紀要，10，1981
10. 五十嵐、他：日本における栄養調査（第一報）栄養調査の経年的考察，岐阜女子短期大学紀要，31，1982
11. 五十嵐：日本における栄養調査（第三報 - 二）主として生活条件からみた栄養摂取量，江南女子短期大学紀要，12，1983
12. 五十嵐、他：地域における高脂血症者と高血圧者に対する栄養指導，江南女子短期大学紀要，15，1986
13. 五十嵐、他：献立研究（第一報）女子短大生の家族のメニュー傾向について，江南女子短期大学紀要，16，1987
14. 五十嵐、他：献立研究（第二報）女子短大生の嗜好と喫食率の傾向について，江南女子短期大学紀要，16，1987
15. 五十嵐、他：献立研究（第三報）おふくろの味としてのメニュー研究とその作成能力の関連について，江南女子短期大学紀要，16，1987
16. 五十嵐、他：献立研究（第四報）江南市在住婦人の伝承したい料理と自慢料理に関する一考察，江南女子短期大学紀要，17，1988
17. 五十嵐、他：献立研究 第5報 若人向き料理雑誌にみられる料理の栄養性格の検討，江南女子短期大学紀要，19，1990
18. 五十嵐、他：栄養指導実習の実践教育の一方法，江南女子短期大学紀要，20，1991
19. 五十嵐、他：栄養指導実習の実践教育の研究，江南女子短期大学紀要，22，1993
20. 五十嵐、他：給食管理における献立総論構成に関しての一知見，江南女子短期大学紀，23，1994
21. 五十嵐、他：地域の健康と食教育に関する研究 第1報 地域住民の塩分摂取傾向，江南女子短期大学紀要24，1995
22. 五十嵐：病院食供食サービスの研究 第1報 病棟調理室とレシピの提案，江南女子短期大学紀要，25，1996
23. 五十嵐、他：給食管理実習の教育に関する研究（第7報）江南女子短期大学紀要，25，1996
24. 五十嵐、他：栄養指導実習の実践教育の研究 第3報 大衆教育における子供対象の食文

- 化媒体の導入について，江南女子短期大学紀要，26，1997
25. 五十嵐、他：現代に生きる民間食事療法の研究 第1報 - 枸杞子の薬膳料理への活用法について - ，愛知江南短期大学紀要，29，2000
26. 五十嵐、他：現代に生きる民間食事療法の研究 第2報 薏苡仁と銀耳の薬膳料理への活用法 - ，愛知江南短期大学紀要，30，2001
27. 五十嵐、他：栄養指導論実習の実践教育の研究 第4報 国策の「健康日本21」を組み入れた実践教育の取り組み，愛知江南短期大学紀要，31，2002
28. 五十嵐、他：献立論構築のための一試案，愛知江南短期大学紀要，32，2003

【その他】

1. 五十嵐、他共著：働く男性の食生活実態について 東邦ガスKK．出版（報告書）
2. Fukuyo Igarashi et al. : Nutrition Education using hand measurement based on the Diabetes Exchange Table, 第2回 アジア国際栄養士会議，SEOUL KOREA,1998

贈ることば

五十嵐福代先生は、本学が昭和45年4月に林学園女子短期大学として発足すると同時に、家政学科助教授として着任されました。

2年後に家政学科第3部が開かれ、昭和48年には家政学科第1部を専攻分離して、食物栄養学専攻を設け、ここで栄養士養成を行なうこととなりました。栄養士のキャリアを持ち、短期大学教育の経験を有する先生が存在によって、栄養士養成施設としての許認可が順調に進行したものと思われます。開設後は栄養士養成コース運営の要として、その充実、発展に多大の貢献をされました。臨床栄養学、栄養指導の理論と実習をメインに多数の科目を担当され、あふれんばかりの情熱をもって学生の指導にあたられました。

栄養指導実習の一環として、江南市主催の消費生活展に学生を参加させる試みを昭和59年から今日まで続けています。

紙芝居やポスター等の媒体作り、展示・料理のデモンストレーション、地域住民への栄養指導を行なうことによって、学生の総合的学習の成果を問う場とするとともに実践的能力を向上させる機会としています。消費生活展は「消費者ふれあいプラザ」と名称を変え、平成2年から新たに農業まつりが開催されることになりました。そこで、1年生は農業まつりに、2年生は消費者ふれあいプラザにそれぞれ全員参加させるというパターンができました。この間の事情は、本学紀要22号（1993年）に詳述されています。

教育とともに、先生は学生指導を熱心に行なわれました。また、就職先の開拓にも力を入れ、栄養士養成コース開設以降、栄養士としての就職率が80%以上を維持するという他大学では見られない実績を挙げられました。さらに、多数の卒業生が来学して、現場における仕事上の相談を持ちかけていますが、実に面倒見よく対応しておられます。管理栄養士受験講座を開く等の卒後教育にも奮闘されています。

昭和58年4月から同61年3月まで付属図書館長、平成2年から同9月まで生活科学科長職務代理を勤められ、大学の運営に力を尽くされました。

先生の研究分野は栄養指導および臨床栄養学で、昭和40年には日本栄養改善学会会員となり、この学会の進展に寄与され、理事を務められました。この他に日本栄養食糧学会、日本公衆衛生学会、老年医学会などに所属し、精力的に学会発表を続けて、著書10冊、論文42編に及ぶ研究業績を挙げられました。特に本学紀要への投稿は第1号から始まって27編を数えます。また、老人福祉、全業協月報などの雑誌への投稿、前述の消費生活展などの地域への食教育啓蒙活動を広く展開されています。

平成元年10月には「食中毒の疾病構造の変遷」の研究により東京大学医学部で保健学博士の学位を取得されました。

先生は永年にわたって、栄養士会の中核的な役割を果たして来られました。栄養士会会員歴45年で、教育養成職域協議会理事・監事を4期努められ、愛知県栄養士会理事、日本栄養士会理事を歴任して、平成14年4月から愛知県栄養士会会長の重責を担い現在に至っています。

また、ベタニアホーム(NPO事業)副会長、東海ホリテック医療振興会理事(食事療法担当)、あいち・栄養指導研究会顧問、在宅訪問食事指導研究会顧問など介護保険制度が進展する中で、栄養士を指導する立場として広範囲な活動を行なっておられます。

このような教育研究活動に対して、昭和51年11月に栄養改善学会学会賞を受賞し、同60年9月には栄養士養成施設功労者として愛知県知事表彰を受け、さらに、平成5年10月には栄養関係教育功労者として厚生大臣に表彰されました。

開学当初から33年間にわたって、本学の発展ならびに栄養士養成コースの充実に尽力されたことを深く感謝申し上げます。

ご健康で末永いご活躍を祈念いたします。

(生活科学科長 斉藤靖子)